

講義コード	17F6040000
講義名称	メディア文化特論-ドキュメンタリーを作る・観る・読む <春集>
科目英文名	Media and Culture – How to make, watch and read Documentary film
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	FMED3430
単位数	4.0
時間割	春学期: 月曜日 1 時限, 春学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
鈴木 隆史

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	-----------------------------------------	------------

講義・演習概要	本講義ではテレビ・映画のドキュメンタリー作品を鑑賞しながら、それぞれの作品はどのようにして生まれ、何を観るものに伝えようとしているのかについて共に考え、ドキュメンタリーの多様性とその魅力について学びます。一般的にドキュメンタリーは、「制作者の意図や主観を含まぬ“事実の描写”」と考えられていますが、必ずしもそうではありません。カメラで同じ出来事を捉えていても、そこには同じ映像が写っているわけではありません。映像の編集過程では制作者(ディレクターや映画監督)の意図が必ず反映されます。いわゆる客観的な映像というのはないと言えるでしょう。社会問題や政治問題などを扱ったドキュメンタリーが問題の本質を観るものに気づかせてくれることも多いのは、制作者の問題意識が反映されているからでもあるのです。私たちはこうして作品から知らなかったことを知るだけでなく、改めて考えさせられたり、共感したり、怒ったり、感動するのだと言えます。ドキュメンタリーの海に共に漕ぎ出してみましよう。
学習(到達)目標	ドキュメンタリー映画の多様性について理解する。様々なドキュメンタリーが存在することを知る。ドキュメンタリーは社会や自然を描くだけでなく、人間を描くものである。ドキュメンタリーは制作者の意図が反映される。ドキュメンタリーから世界が直面する課題や歴史、知らなかった事実を知ることができる。ということを理解し、ドキュメンタリーの魅力に気づく。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション。森達也「ドキュメンタリーは嘘をつく」 森達也著『ドキュメンタリーは嘘をつく』 佐藤真「ドキュメンタリーはフィクションである」 事実をもとに制作者が伝えたいことを描いたものであることをまず理解しよう。
第2回	世界初のドキュメンタリー映画を観る フラハティ監督『極北の怪人』探検家が撮った記録映画、住民参加によって作られた、社会派たちから批判を受けたのはなぜか?
第3回	テレビドキュメンタリーを観る 1) 大島渚監督『忘れられた皇軍』映画に描かれた事実は何かを知るために当時の社会について学ぶ なぜ大島は怒りをぶつけたのかについて考える
第4回	テレビドキュメンタリーを観る 2) TBS 報道特集から現代の社会・政治問題について学ぶ 今世界で何が起きているのか? 私たちの日常生活に目を向ける
第5回	ドキュメンタリー映画を観る 1) 原一男監督『ゆきゆきて神軍』 カメラの暴力性について考える
第6回	ドキュメンタリー映画を観る 2) 原一男監督『ゆきゆきて神軍』続きを観る 映画評、シナプスを読んで内容について議論する
第7回	ドキュメンタリー映画を観る 2) 土本典昭監督『ある機関助手』国鉄の宣伝映画だが、監督はどのようにしてこの作品を作り上げたのか?撮られる人たちとの関係をどのようにして築くのか?
第8回	ドキュメンタリー映画を観る 3) 亀井文夫監督『戦ふ兵隊』、日中戦争下、戦意高揚を目的に陸軍省支援によって制作された映画。しかし上映が認められなかった。それはなぜか? 亀井文夫が映画に込めた思いとは何か?映像の中から探し出す。
第9回	ドキュメンタリー映画を観る 4) 土本典昭監督と水俣病 徹底して一つのテーマを掘り下げる 『水俣一患者さんとその世界』

第10回	ドキュメンタリー映画を観る 5) 土本典昭監督と水俣病 続き 患者さんにカメラを向けるということの覚悟と責任とは
第11回	テレビドキュメンタリーを観る 3) 現代社会が抱える問題について捉えた作品を観る 沖縄基地、原発、自殺、差別、セクハラ、いじめ、コロナ、外国人労働者など
第12回	テレビドキュメンタリーを観る 4) テーマを選んで観る 続き
第13回	ドキュメンタリー映画を観る 6) 佐藤真監督『阿賀に生きる』スタッフとともに撮影現場に住んで映画を撮る 撮る側と撮られる側の共犯関係について考える
第14回	ドキュメンタリー映画を撮る 7) 佐藤真監督『阿賀に生きる』続き 佐藤真のドキュメンタリー論を読む 映画についていろんな見方がある 何を読み取るかは観る人によって異なる
第15回	ドキュメンタリー映画を観る 8) ヤン・ヨンヒ監督『ディア・ピョンヤン』(ドキュメンタリー) 自身の家族、特に父カメラを向ける
第16回	ドキュメンタリー映画を観る 9) ヤン・ヨンヒ監督『かぞくのくに』(劇映画) 同じテーマを描いた2つの映画、劇映画に描かれた家族の姿 ドキュメンタリーと劇映画との違いはあるのだろうか?
第17回	ドキュメンタリー映画をつくる 1) インドネシアにおける日本軍性暴力(性奴隷制)を描く 取材、インタビュー、編集のプロセスを具体的に話す
第18回	ドキュメンタリー映画を作る 2) インドネシアにおける日本軍性暴力を描く 続き 何を伝えようとするのか、何を感じ取ることができるか
第19回	ドキュメンタリー映画を観る 10) ルイ・シホヨス監督『ザ・コーヴ』が描く捕鯨問題 同じテーマでも制作者の視点が異なると違う作品が生まれることを知る
第20回	ドキュメンタリー映画を観る 11) 八木景子監督『ビハインド・ザ・コーヴ』は反コーヴ?
第21回	ドキュメンタリー映画を観る 12) 佐々木芽生監督『おクジラさま』 一人のアメリカ人ジャーナリストの目線で太地のクジラ漁を捉える
第22回	ドキュメンタリーテレビを観る 6) NHK 『鯨と生きる』
第23回	ドキュメンタリーを読む 1) 太地町の捕鯨を巡る問題を映画が描き出す 異なる視点、異なる印象、あなたはどうか考える?
第24回	ドキュメンタリーテレビを観る 5) NHK 『灼熱の海にクジラを追う~インドネシア・ロンパタ島』 鯨と人との命がけの闘い
第25回	ドキュメンタリー映画を観る 13) 観察映画とは?ナレーション、音楽を省くと何が見える? 想田和弘監督『精神』『選挙』
第26回	続き 観察映画とは?
第27回	ドキュメンタリー映画を観る 7) フレデリック・ワイズマン監督『ニューヨーク・ジャクソンハイツへようこそ』
第28回	ドキュメンタリー映画を読む 2) 観察映画の魅力 観る力・読み解く力を養う
第29回	ドキュメンタリー映画の魅力 1) ナチスドイツのプロパガンダ映画 レニ・リーフェンシュタール監督『意志の勝利』
第30回	ドキュメンタリー映画の魅力 2) ピアース・ラファティ監督他『アトミック・カフェ』 原子爆弾や実験の記録映画、プロパガンダ映画を編集によってつなぎ合わせた作品 さてその内容は?

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	本授業では採点はレポート提出で行う。授業毎に提出する短いレポートが40%。出欠にかえる。また授業最終日を目処に提出してもらったレポートが60とする。授業は二コマを連続で行う。映画を上映することが多いので授業開始20分以降の入室は認めない。変則的に休憩時間を設けるが、一つの作品をすべて鑑賞しないでレポートを書くことは認めない。授業時間に間に合わない(列車の遅延などを除く)場合は、二時間目から出席することも認めないので一時間目から出席すること。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考文献	森達也著『ドキュメンタリーは嘘をつく』草思社、2005年、ISBN4794213891, 想田和弘著『なぜ僕はドキュメンタリーを撮るのか』講談社新書、2011年、ISBN 978 - 4 - 06 - 288113 - 5 佐藤真著『ドキュメンタリー映画の地平』凱風社、2009年、ISBN978 - 7736 - 3313 - 9 土本典昭著『不敗のドキュメンタリー 水俣を撮り続けて』岩波現代文庫2019年
事前および事後学習の指示	本講義では事前学習の通知がない場合は、その必要がない。ただし、作品を見損ねた場合は自身でネットなどで作品を鑑賞してほしい。採集レポート作成には必要になることもある
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間
キーワード	観察映画、プロパガンダ、記録映画、ドキュメンタリー、ナレーション

講義コード	14D0310001
講義名称	経済原論 01<春集>
科目英文名	Principles of Political Economy
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2330
単位数	4.0
時間割	春学期: 月曜日 1 時限, 春学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
金江 亮

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--------------------------------------------	----------------------

講義・演習概要	従来のマルクス経済学に、新古典派経済学や最適成長理論といった、近代経済学の理論の観点も取り入れつつ学ぶ。ミクロ経済学・マクロ経済学とはまた違った視点で経済を学ぶ。 またテキスト以外にも、ドキュメンタリーや映画などの映像資料も数回用いる予定である。
学習（到達）目標	マルクス経済学の基礎を学ぶ。また、現実の経済問題について、社会科学的な視点で考えられるようになることが目標である。

講義・演習計画

回	内容
第1回	第1章 マルクスの人間論1 土台としての生産活動 マルクス経済学と近代経済学の共通点と違い
第2回	第1章 マルクスの人間論1 土台としての生産活動 唯物論で社会科学を観る
第3回	第1章 マルクスの人間論2 上部構造の唯物論的理解 唯物論と新古典派の親近性
第4回	第1章 マルクスの人間論2 上部構造の唯物論的理解 資本主義の成立：マルクスとウェーバー
第5回	第1章 マルクスの人間論3 土台が上部構造を規定するとはどういうことか イデオロギーは経済から来る
第6回	第1章 マルクスの人間論3 土台が上部構造を規定するとはどういうことか 様々な社会問題の背景には経済問題がある。
第7回	第2章 商品生産社会としての資本主義1 商品生産が一般化する条件としての生産力 商品とは何か。
第8回	第2章 商品生産社会としての資本主義1 商品生産が一般化する条件としての生産力 価値と価格の違い。
第9回	第2章 商品生産社会としての資本主義2 生産物と商品 価値形態論と交換過程論。
第10回	第2章 商品生産社会としての資本主義2 生産物と商品 貨幣発生の数理的論証。
第11回	第2章 商品生産社会としての資本主義3 自己増殖する貨幣としての資本 資本の第一定義。
第12回	第2章 商品生産社会としての資本主義3 自己増殖する貨幣としての資本 お金はただあるだけでは資本ではない。

第13回	第3章 工業社会としての資本主義1 『労働指揮権』としての資本資本の第二定義。
第14回	第3章 工業社会としての資本主義1 『労働指揮権』としての資本資本の下への労働の包摂。
第15回	第3章 工業社会としての資本主義2 剰余価値の量的変動剰余価値率と利潤率の違い。
第16回	第3章 工業社会としての資本主義2 剰余価値の量的変動減価償却費と不変資本。
第17回	第3章 工業社会としての資本主義3 非工業部門における『産業革命』と資本主義化大規模化は、非工業部門でも起きる。
第18回	第3章 工業社会としての資本主義3 非工業部門における『産業革命』と資本主義化学校や病院でも大規模化が起こる。
第19回	第4章 資本主義の発展と死滅1 資本主義の生成・発展・死滅を説明するモデル経済成長論。
第20回	第4章 資本主義の発展と死滅1 資本主義の生成・発展・死滅を説明するモデル成長率は0に収束する。
第21回	第4章 資本主義の発展と死滅2 蓄積捨象の場合の再生産条件(単純再生産)最も単純な場合だが、現在の先進国経済を観る上でも重要である。
第22回	第4章 資本主義の発展と死滅2 蓄積捨象の場合の再生産条件(単純再生産)単純再生産でも、搾取が存在する。
第23回	第4章 資本主義の発展と死滅3 剰余価値の資本への転化(拡大再生産)成長率と部門間比率。
第24回	第4章 資本主義の発展と死滅3 剰余価値の資本への転化(拡大再生産)成長率はどう決まるか。
第25回	第4章 資本主義の発展と死滅4 資本主義的蓄積の一般的傾向利潤率の傾向的低下の法則
第26回	第4章 資本主義の発展と死滅4 資本主義的蓄積の一般的傾向先進国は軒並み低成長に陥っている
第27回	第4章 資本主義の発展と死滅5 原始的蓄積と国家資本主義資本主義の成立にはどの国も多くの残酷なことがあった
第28回	第4章 資本主義の発展と死滅5 原始的蓄積と国家資本主義ソ連・中国は特殊な資本主義だった
第29回	第5章 資本主義的生産に先行する諸形態
第30回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	10%
その他	

成績評価の方法（コメント）	授業への積極的な参加を歓迎する。成績評価は毎回の確認テスト(2~4問程度)と、2~4回ほど映像資料のレポートを課す予定である。
---------------	-----------------------------------------------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大西広	マルクス経済学【第3版】	大学オンライン販売	9784766426755	慶應義塾大学出版会	

参考文献	松尾匡『マルクス経済学(図解雑学シリーズ)』（ナツメ社） 大谷禎之助『図解 社会経済学』（桜井書店） 北村洋基『現代社会経済学』（桜井書店）
------	------------------------------------------------------------------------------

事前および事後学習の指示	テキストは少し難しいが、難しい数式が理解できなくても気にしなくてよい。授業では、簡単な数値例で説明する。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間

講義コード	1781110000
講義名称	日本語学概論 < 春集 >
科目英文名	Introduction to Japanese Linguistics
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	LING1400
単位数	4.0
時間割	春学期: 月曜日 3 時限, 春学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
有川 康二

授業形態	講義	実技	アクティブラーニング
	実務経験のある教員による授業①		
	日本語教師としての実務経験あり		

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	宿題(演習問題、e-learning等)	課題解決	その他
			文構造を書く練習

講義・演習概要	<p>ONE PIECEのルフィが涙や鼻水を流しながら「仲間がいる`よ!」。 「`」って変。何故? 大学応援歌の「青空」は[aozora]だけど、[aosora]は変。でも、大学学歌では「大空」は[oosora]で[oozora]ではない。何故? 「痩せた猫の飼い主」と「痩せた猫と飼い主」では意味が違う。何故? 「猫が金魚を食べた」はOK。でも、「猫が金魚が食べた」は変。何故? 「が」とか「を」って何? 格助詞って何? 格って何? 「が」とか「を」について徹底的に考える。「が」とか「を」は母なる自然がつくった情報処理の臓器(脳)に発生したウイルス(エラー)。ホモ・サピエンス語を生み出す言語システムは、このウイルスと共生して構造を創る。ヒト脳はエラー消去のアルゴリズムを使い、無秩序と秩序の相転移を繰り返す。ヒト脳内の言語システムは母なる自然がつくったウイルス(エラー)・チェック・システム。授業を受けると意味が分かります(驚)。「が」とか「を」について徹底的に考えるのは、あなたの人生の中で最初で最後。日本語の母語話者は文法など意識せずに使う。日本語はアホほど当たり前(阿呆)。日本語のことは何でも知っていると思ひ込む。しかし、日本語の音や文法の法則やメカニズム、それがヒト脳内で如何に生成されるかは説明できない。全部知っていると思ひ込んでいることが、何にも分かっていないという戦慄! 誰でも脳味噌は使えるが、その法則やメカニズムは説明できない。経験科学の方法で言語システムの法則とメカニズムを探る。科学は、当たり前すぎて考えるのもアホらしいと思う事柄に驚嘆することから始まる(驚)。子どもはアホなことに驚嘆できるというすばらしい能力の持ち主(科学者)。長年の学校教育と受験勉強で抹殺されたこのすばらしい能力を取り戻してみませんか? 「自然言語(ことばをしゃべる)」というアホらしい現象は、物理学の最先端の問題である「重力(ものが落ちる)」や「光(明るい・暗い)」というようなアホらしい現象と同様、科学の格好の対象。鳥は飛びまくり、魚は泳ぎまくり、花は咲きまくり、犬は嗅ぎまくり、カエルはジャンプしまくり、私たちヒトはしゃべりまくる。ヒトは喋り狂う動物。言葉とは何か? その言葉をしゃべりまくる生物である私達とは、一体、如何なる生物なのか? 授業をちゃんと聞かない人、勉強する気がない人には全て無駄話に聞こえます(危険)。向学心豊かな真の大学生になりたい人だけ受講してください(願)。</p>
学習(到達)目標	<p>日本語を三つの視点から概論。(1) 生物言語学: ヒト自然言語システムは、母なる自然が創造したヒト脳に突然変異と創発的自己組織化が生じて出現した。その一般的性質とは? 何故、ホモ・サピエンス語はこんな形なのか?(2) 日本語教育学: 日本語を外国語として学ぶ人にとって、日本語の客観的な説明、よりよい説明とは? 地球上の数千の言語は、同じホモ・サピエンス語の方言。日本語を外国語、ホモ・サピエンス語として考える。(3) 哲学: 今この瞬間も時速10万8千km(弾丸速度の約19倍)で公転している地球。その表面に重力でへばりついて、今ここで何をしているのか? 約138億年前にできたこの宇宙(人間が観測できる宇宙)の中で、46億年前にできた地球上で、38億年前に生まれた生命のナレノハテとして、何をしながら、老いて、死んでいくのか? お寺とか大学とか超暇な時間が流れる時空間で考えます(皆さんがアルバイトで忙しいのは知っています)。宇宙市民となって徹底的に考えてみませんか?(驚愕)</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>イントロ 履修要項とシラバスの確認。 勉強とは? 単位とは? 何故、英語の教科書を使用するか?</p>
第2回	<p>私たちホモ・サピエンスの祖先、ホモ・ハビリスの脳の中に約200万年前に突然変異で出現した自然言語システムの本質とは? 言語とは? 言語の牢獄に閉じ込められた人間とは、いかなる生物か?</p>
第3回	<p>ヒト脳の中の言語計算システムの説明とは? 「説明」とは何か?</p>
第4回	<p>古典物理学の説明の方法とは何か?</p>
第5回	<p>ガリレオ、ニュートンらが約500年前に開始した古典物理学、約120年前に開始された量子力学では説明できない自然現象の説明とは?(あなたの脳内の自然言語システムは、母なる自然が約200万年前に創造した自然物。)</p>

第6回	言語に関する常識（ドグマ）を疑う（1）
第7回	言語に関する常識（ドグマ）を疑う（2）
第8回	言語に関する常識（ドグマ）を疑う（3）
第9回	言語に関する常識（ドグマ）を疑う（4）
第10回	ヒト脳内で、どのようなシステムが言語の情報処理に関わっているか？ヒト脳と、ヒト以外の生物の脳の決定的な違いとは？（1）
第11回	ヒト脳内で、どのようなシステムが言語の情報処理に関わっているか？ヒト脳と、ヒト以外の生物の脳の決定的な違いとは？（2） あなたが言葉を聴いたり、発したりしている時、脳の中で何が起きている？
第12回	ミツバチ語を生み出すミツバチ脳の計算とは？何故、ミツバチ語？ミツバチはピタゴラスの定理を本能的に利用！
第13回	数百年の研究の歴史がある連濁現象は、慣性の法則に従う自然現象！
第14回	「仲間がいる`よ！！！」何故、「`」は普通ではないのか？
第15回	複数を示す音素/s/が三種類に変化することは中学英語で勉強した。cakes, dogs, boxesでは、音素/s/は、[s], [z], [iiz]。何故か？日本語の連濁と同様、慣性の法則が関わっている！連濁が阻止される音韻環境を決定するライマンの法則とは？
第16回	ヒト脳の言語計算システムで、どのような素性（情報、英語でfeatures）が関わっているか？言語にとって本質的な素性とは、構造素性（形態統辞素性）！
第17回	言語システムの計算とは何か？文の構造、ウイルス・チェックの構造を紹介。
第18回	言語システムで決定的に重要な操作「結合」（英語では、MERGE）（1） 結合操作は、一見、単純だが、言語計算の本質的な操作。アホみたいに単純に思えるが、超複雑。
第19回	「結合」（MERGE）（2）
第20回	言語システムの基本性質（basic property: BP）（1） キーワードは、「構造的最短距離」。
第21回	言語システムの基本性質（BP）（2）
第22回	言語システムの基本性質（BP）（3）
第23回	言語システムの基本性質（BP）（4）
第24回	「言語システムはウイルス（エラー）・チェック・システム」という仮説をより詳しく。そもそも、あなたの体はウイルス・チェック・システム（免疫システム）。あなたの言葉を生み出す言語システムは、あなたの頭蓋骨という自然の創造したヘルメットの中の脳という情報処理の臓器（典型的な免疫システム）の中。
第25回	言語システム内で起こる構造素性（エラー、ウイルス）の消去を、数学のガウスの消去法と生物の免疫機構と比較、考察。あなたのスマホの中の全てのソフトは、ガウスの消去法を四六時中、使用。
第26回	言語システムにおいて、数学でいう交換法則と結合法則は成立しているか、破れているか？（1） （「結合法則」（associative law）の「結合」（associative）と、言語操作「結合」（MERGE）は別。）
第27回	言語システムにおいて、交換法則と結合法則は成立しているか、破れているか？（2）
第28回	自然法則、物理法則である「最小計算の法則」（principle of minimal computation: MC）の詳細。ミツバチが本能的に駆使するピタゴラスの定理が再登場。
第29回	MC（続き）
第30回	MC（続き）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	

その他	0%
-----	----

成績評価の方法 (コメント)	講義中に自筆でノートをとってください。毎回提出の自筆授業ノートの質、量、提出具合で評価。毎回の授業の自筆ノート取りが一回、一回の試験です。自筆でのノート取りは基本の基。基本の基で評価します。ここでは剽窃援助AIシステムChatGPTも無能です。
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	Koji Arikawa	Elements of generative syntax: How rationality tackles the language system		978-981-95-6317-3	Springer Singapore	chap. 2, 3, 4, 6, 7の要点を扱う。購入不要。
2.	Koji Arikawa	Elements of geometrical linguistics (full version)			ms. St. Andrew's University	補助的に使用。購入不要。

参考文献	Jenkins, L. (2000) <i>Biolinguistics: Exploring Biology of Language</i> . Cambridge University Press. 酒井邦嘉(2002)『言語の脳科学-脳はどのようにことばを生みだすか』中公新書 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版
事前および事後学習の指示	内容を順次理解しなければ、珍糞漢糞になります。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間
キーワード	自然言語、自然法則、情報、構造、エラー最小化システム

講義コード	1790210000
講義名称	科学思想史 <春集>
科目英文名	History of Scientific Thoughts
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	PHIL1420
単位数	4.0
時間割	春学期: 月曜日 4 時限, 春学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
本間 栄男

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	-----------------------------------------	------------

講義・演習概要	西欧近代を成功させ、今日の我々の文化にも重大な影響を与えているが、まだ十分に理解し、使用されているとはいいがたい「科学的な考え方」を歴史の実例を挙げて解説する。
学習（到達）目標	個々の科学に関する事実を暗記するのではなく、「科学的な考え方」を身につけることを目標とする。そのために、「科学的な考え方」とは何かを十分に理解し、それを応用して自ら問題を解くことができるようになることが目的である。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	科学と神話
第3回	文字と思想
第4回	デカルトと方法
第5回	仮説演繹法概説（1）歴史的概観
第6回	仮説演繹法概説（2）実例
第7回	原理（1）はじまり
第8回	原理（2）原理の性質
第9回	命題
第10回	定義
第11回	演繹推論
第12回	数学の公理系
第13回	懐疑（1）古代懐疑論
第14回	懐疑（2）近代懐疑論
第15回	コペルニクス革命
第16回	進化論革命
第17回	仮説
第18回	帰納推論
第19回	観察
第20回	アナロジー（1）アナロジーの意味

第21回	アナロジー（2）アナロジーの応用
第22回	組み合わせ
第23回	セレンディピティ
第24回	実験
第25回	検証
第26回	仮説実験演繹法（1）概論
第27回	仮説実験演繹法（2）具体例
第28回	革命
第29回	科学的な考え方と日常的な考え方
第30回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	複数回のテストの結果で成績を決めます。
---------------	---------------------

参考文献	伊勢田哲治『科学哲学の源流をたどる』ミネルヴァ書房 2018年 金森修・井山弘幸『現代科学論』新曜社 2000年 内井惣七 『科学哲学入門』世界思想社 1995年
事前および事後学習の指示	科学的なものの考え方に鋭敏になるために、TVの科学番組などを積極的に視聴する。 講義で使用するスライド等は事前あるいは事後に掲示するので、予習復習に利用すること。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間

講義コード	14D0110002
講義名称	ミクロ経済学 02<春集>
科目英文名	Micro Economics
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2310
単位数	4.0
時間割	春学期: 火曜日 4 時限, 春学期: 金曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
西崎 勝彦

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	------------------------------------------------------

講義・演習概要	<p>市場経済では財・サービスが市場で取引され、市場を通じて財・サービスが生産・消費される。こうした市場を通じた財・サービスの配分の過程を分析するための学問がミクロ経済学である。ミクロ経済学は公共経済論や財政論、労働経済論、国際経済論、産業組織論といった経済学の応用分野の基礎となっている。この授業ではミクロ経済学の基礎について説明し、市場経済の仕組みについて考える。</p> <p>この授業では、ミクロ経済学を構成する「均衡理論」と「ゲーム理論」による基本的な分析を説明する。説明はスライドを使った講義形式で行う（スライドは授業資料として履修者に配布する）。履修者にはいくつかの授業で課題（計算問題を含む）に取り組んでもらい、その解答を提出してもらう（授業の最初に前回の課題を解説する）。</p>
学習（到達）目標	<p>(1) ミクロ経済学で使われている分析方法を習得する。</p> <p>(2) 部分均衡理論・一般均衡理論がどのような環境で何を分析しようとしているのかを理解する。</p> <p>(3) ゲーム理論がどのような環境で何を分析しようとしているのかを理解する。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業内容の説明およびミクロ経済学の概説
第2回	需要と供給
第3回	需要曲線の構造
第4回	消費者行動と需要曲線
第5回	供給曲線の構造
第6回	短期費用曲線と長期費用曲線
第7回	生産者行動と供給曲線
第8回	市場の均衡と効率性
第9回	効用と無差別曲線
第10回	予算制約と消費者行動
第11回	所得の変化と需要
第12回	価格の変化と需要
第13回	生産関数と企業
第14回	費用最小化行動と総費用曲線
第15回	利潤最大化行動
第16回	交換の利益

第17回	生産活動における資源配分
第18回	授業内容の総括1：均衡理論
第19回	ミクロ経済学の展開
第20回	標準形ゲーム
第21回	最適反応とナッシュ均衡
第22回	囚人のジレンマ
第23回	クールノー競争
第24回	展開形ゲーム
第25回	後ろ向き帰納法
第26回	部分ゲーム完全均衡とナッシュ均衡
第27回	空脅しとコミットメント
第28回	シュタッケルベルク競争
第29回	ゲーム理論の展開
第30回	授業内容の総括2：ゲーム理論

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	<p>第3-17回と第20-28回の授業内で毎回課題（短答式、計算問題を含む）を出す（上記「その他」に該当）。対面授業を基本とし、授業の残り20分ほどで課題に取り組んでもらい、その解答を任意の用紙に記入して写真に収め、その写真データを授業日の翌日までにWebClass経由で提出してもらう（Wordファイルなどその他の電子媒体でも構わない）。</p> <p>第17回および第28回の授業が終わった段階で、いくつかの授業に関するレポート課題を履修者に無作為に割り当て（履修者によってレポート課題が異なる場合がある）、そのレポート（論述式）をWebClass経由で提出してもらう（上記「レポート」に該当、それぞれ40%ずつで評価）。なお、第17回後については第3回から第17回までの中から、第28回後については第20回から第28回までの中からレポート課題を割り当てる。</p> <p>授業内の課題およびレポート課題の詳細については第1回の授業で説明するので、履修者は必ず確認すること（授業に出席できなかった場合は担当教員に問い合わせること）。</p>
----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	伊藤元重	ミクロ経済学 第3版	大学オンライン販売	978-4535558441	日本評論社	本書に基づいてスライドを作成し、それを授業資料として履修者に配布する。
2.	梶井厚志, 松井彰彦	ミクロ経済学－戦略的アプローチ	大学オンライン販売	978-4535552029	日本評論社	上記のテキストではゲーム理論の説明が不十分であるため本書で補足する。

参考文献	<p>天谷研一（2011）『図解で学ぶゲーム理論入門』日本能率協会マネジメントセンター。</p> <p>伊藤元重, 下井直毅（2023）『ミクロ経済学パーフェクトガイド』日本評論社。</p> <p>奥野正寛（2008）『ミクロ経済学』東京大学出版会。</p> <p>神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。</p> <p>武隈慎一（2016）『新版 ミクロ経済学』新世社。</p> <p>船木由喜彦（2014）『はじめて学ぶゲーム理論』新世社。</p> <p>松井彰彦（2010）『高校生からのゲーム理論』筑摩書房。</p> <p>武藤滋夫（2001）『ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社。</p>
事前および事後学習の指示	テキストに掲載されている演習問題に取り組むなどして、問題意識を持つことでミクロ経済学への理解を一層深めてもらいたい。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間

講義コード	1620010000
講義名称	経営学総論 <春集>
科目英文名	Business Administration
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	BUSA1410
単位数	4.0
時間割	春学期: 水曜日 1 時限, 春学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
藤井 暢人

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業① シンクタンクでの勤務経験を有する教員が経営学の基礎概念について解説する
------	----	------------	--------------------------------------------------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	

講義・演習概要	本講義では、経営学の基礎概念について学習します。具体的には、経営学の代表的な理論や考え方を、大学や企業といった社会の中で直面する問題に照らし合わせながら検討していきます。よって、本講義には経営学の基礎概念を理解することのみならず、将来的に経営学を用いた問題解決が可能となることを目指します。
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生が、経営学とは何かを説明することができるようになる。 ② 学生が、個人や集団、企業が抱える課題を、経営学の基礎概念を用いて説明することができるようになる。 ③ 学生が、課題の解決策を、経営学の基礎概念を用いて検討することができるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	経営学を学ぶ意味：なぜ理論が必要なのか？（バイアスに焦点を当てて）
第2回	経営学を学ぶ意味：なぜ理論が必要なのか？（推論に焦点を当てて）
第3回	マネジメントの基礎：組織とは何か
第4回	マネジメントの基礎：誘因と貢献
第5回	マネジメントの基礎：有効性と能率
第6回	マネジメントの基礎：分業の種類
第7回	マネジメントの基礎：分業のメリットとデメリット
第8回	これまでの復習および試験
第9回	マネジメントの基礎：完全合理性と限定合理性
第10回	マネジメントの基礎：官僚制の機能と逆機能
第11回	ヒトのマネジメント：リーダーシップの行動論
第12回	ヒトのマネジメント：リーダーシップの条件適合理論
第13回	ヒトのマネジメント：変革型リーダーシップ
第14回	ヒトのマネジメント：モチベーションの種類
第15回	ヒトのマネジメント：モチベーションの管理
第16回	ヒトのマネジメント：人間関係
第17回	ヒトのマネジメント：離職とRJP

第18回	これまでの復習および試験
第19回	集団のマネジメント：組織文化
第20回	集団のマネジメント：集団バイアス
第21回	集団のマネジメント：集団の落とし穴
第22回	集団のマネジメント：ミルグラムの服従実験
第23回	事業承継のマネジメント：スリーサークルモデル
第24回	事業承継のマネジメント：事業承継のプロセス
第25回	消費者心理学：広告の心理的効果
第26回	消費者心理学：広告の対人的影響
第27回	理論のメカニズム：因果関係の捉え方
第28回	これまでの復習および試験
第29回	創造性のマネジメント：創造性と組織的制約
第30回	創造性のマネジメント：広告制作の創造性

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法 （コメント）	本講義の成績評価は、定期試験（第8回・第18回・第28回）と、ランダムに実施される小テストによって評価によって行います。また、外部講師を招いた講義を実施した場合、レポート等による追加の評価を行うことがあります。
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考文献	稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝「キャリアで語る経営組織：個人の論理と組織の論理」（ISBN：978-4-641-12393-9）有斐閣 鈴木竜太「経営学無敵のメソッド70」（ISBN：978-4-262-17476-1）池田書店 鈴木竜太「経営組織論はじめての経営学」（ISBN：978-4-492-50295-2）東洋経済新報社
事前および事後 学習の指示	まず、事前学習として、各回の内容に沿った自身の経験について簡単にまとめるようにしてください。次に、事後学習として、講義内で扱った概念や理論について、身の回りの事例を元に説明できるようにしてください。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間
キーワード	経営学、組織行動、経営組織、経営管理

【社会人の方へ】学部生を想定した講義を行います。その点をご理解の上、聴講ください。

講義コード	14D0210002
講義名称	マクロ経済学 02<春集>
科目英文名	Macro Economics
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2320
単位数	4.0
時間割	春学期: 水曜日 1 時限, 春学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
中村 勝之

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)

講義・演習概要	<p>マクロ経済学の主要な課題は、一国経済の動向を規定するGDP（国内総生産）の決定メカニズム、およびそこから派生する経済成長、失業、インフレーションといった諸変数の決定メカニズムを探り、その上で、政府によるマクロ経済政策（景気対策とほぼ同義）の効果を理論的に検証することにある。だが入門書で語られていることと今の日本経済の現状を素朴に観察したとき、かなりの食い違いに気づく。そこにはいくつかの理由があるのだが、その1つとして確実に言えそうなのは、入門書では経済の「グローバル化」、すなわち対外経済取引をほとんど捨象していることが問題を見えにくくしている。</p> <p>そこでこの講義ではマクロ経済学の基礎知識の1つのゴールであるIS-LM分析を、対外経済取引が行われる状況に拡張した議論（マンデル＝フレミング・モデル）を最終到達点として、マクロ経済学の基礎知識を解説していく。</p> <p>なおこの講義では数学をより積極的に使用する予定にしているが、初学者で対応可能な操作を行うので、恐れずに受講していただければ幸いである。</p>
学習（到達）目標	<p>学部初級レベルのマクロ経済学は「連立方程式体系」で構成され、数多くの式と記号で記述される。これを数多く触れながら、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 背後にある前提 ② 論理を追求した際の整合性 ③ 政策上の帰結と含意 <p>これらを理解していただきたい。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス (このときに成績評価基準の詳細を通知する。)
第2回	文法としての経済数学Ⅰ（関数と方程式）
第3回	文法としての経済数学Ⅱ（微分法）
第4回	GDPⅠ（三面等価の原則）
第5回	GDPⅡ（さまざまな指標）
第6回	GDPⅢ（名目と実質）
第7回	主要関数一覧Ⅰ（需要面の諸関数）
第8回	主要関数一覧Ⅱ（供給面の諸関数）
第9回	乗数理論Ⅰ（ノーマルケース）
第10回	乗数理論Ⅱ（均衡財政主義）
第11回	IS-LM分析Ⅰ（均衡の導出）
第12回	IS-LM分析Ⅱ（ノーマルケース）
第13回	IS-LM分析Ⅲ（経済政策論争の入り口）
第14回	AD-AS分析Ⅰ（ノーマルケース）

第15回	AD-AS分析Ⅱ（新古典派ケース）
第16回	AD-AS分析Ⅲ（ケインズ革命の核心）
第17回	AD-AS分析Ⅳ（ケインズ本人のケース）
第18回	AD-AS分析Ⅴ（ケインズ派ケース）
第19回	失業とインフレーションⅠ（データの観察）
第20回	失業とインフレーションⅡ（マネタリストのケース）
第21回	失業とインフレーションⅢ（新しい古典派のケース）
第22回	ここまでの講義まとめ
第23回	乗数理論の拡張Ⅰ（ノーマルケース）
第24回	乗数理論の拡張Ⅱ（2国間貿易）
第25回	為替制度と国際金融のあらまし
第26回	マンデル＝フレミング・モデルⅠ（3つの曲線の導出）
第27回	マンデル＝フレミング・モデルⅡ（固定相場制でのマクロ経済政策の効果）
第28回	マンデル＝フレミング・モデルⅢ（変動相場制でのマクロ経済政策の効果）
第29回	マンデル＝フレミング・モデルⅣ（閉鎖経済との比較考察）
第30回	総まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	<p>①講義時間中に行われる小レポート（5回実施（1回につき10点満点）。獲得合計を100点満点に換算）</p> <p>②講義期間中頃に行われる中間大レポート</p> <p>③期末大レポート</p> <p>④単元末のレスポンスシート</p> <p>※上記①～④の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算し、60点以上であれば合格。</p>
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						使用しない。適宜資料(レジュメ)を配付する。

参考文献	<p>中村勝之（2021）『大学院へのマクロ経済学講義』（新装版）現代数学社</p> <p>藤間真・中村勝之（2024）『経済数学の羅針盤－解析学・大学院入試問題解題－』現代数学社</p> <p>中村勝之（2025）『マクロ動学・ゲーム理論の数理』現代数学社</p>
事前および事後学習の指示	<p>・特段の事前学習の指示はない。</p> <p>・桃山トップレベルの難易度を誇っているので、やりきるだけの覚悟を持って事後学習に励むこと。</p>
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間

講義コード	17A7350001
講義名称	学科特殊講義-宮崎アニメの世界Ⅰ 01<春集> ※英語による講義
科目英文名	Lecture on Special Topic-Miyazaki Hayao's World of Anime
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT3440
単位数	4.0
時間割	春学期: 水曜日 3 時限, 春学期: 水曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
取屋 淳子

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	-----------------------------------------

講義・演習概要	<p>“Anime” (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works.</p> <p>This course will look at a number of Miyazaki’s movies, including “My Neighbor Totoro” “Princess Mononoke,” and “Spirited Away,” from various angles. In addition to Miyazaki’s works, other Japanese animated movies will also be taken up. The history of Japanese animation will also be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company which are the most widely known.</p>
学習（到達）目標	<p>By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime.</p> <p>The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received and the reaction of audiences worldwide.</p> <p>Movies examined will include:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Miyazaki’s Works: “Nausica of the Valley of the Wind,” “My Neighbor Totoro,” “Princess Mononoke,” “Spirited Away,” etc… ○ Other Anime Productions: “Haku-ja den,” “Akira,” “GHOST IN THE SHELL” etc.

講義・演習計画

回	内容
第1回	Introduction of the lectures
第2回	Introduction of the lectures
第3回	Starting point of Miyazaki Hayao①
第4回	Starting point of Miyazaki Hayao①
第5回	Starting point of Miyazaki Hayao②
第6回	Starting point of Miyazaki Hayao②
第7回	History of Japanese Anime①
第8回	History of Japanese Anime①
第9回	History of Japanese Anime②
第10回	History of Japanese Anime②
第11回	History of Japanese Anime③
第12回	History of Japanese Anime③
第13回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①
第14回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①
第15回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②

第16回	Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②
第17回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime①
第18回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime①
第19回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime②
第20回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime②
第21回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime③
第22回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime③
第23回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime④
第24回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime④
第25回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑤
第26回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑤
第27回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑥
第28回	Japanese Culture in Miyazaki's Anime⑥
第29回	Review
第30回	Review

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	Reaction paper and Term paper(in English).
---------------	--------------------------------------------

参考文献	Hayao Miyazaki : Starting Point 1979~1996 (2014)
事前および事後学習の指示	詳細は講義中に指示するが、キーワードなど、自分なりの理解が深まるよう努力すること。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間

【社会人の方へ】英語での講義ですが、英語を学ぶのではなく、アニメ作品における日本文化等を、英語で見ていく内容になります。映像の視聴（日本語音声・英語字幕）の機会が多いです。